

年中組

お弁当を先に食べ終わった子が友だちの片づけを手伝ってあげたり、水筒を忘れないように友だちに持って行ってあげたり、帰りの支度に困っていた友だちを助けてあげたり、お友だちの気持ちを考えて行動している優しい姿がいっぱいみられ、みんなの成長を感じました。

お弁当は、親がいるからか(いろいろなことが)気になってダラダラ食べていましたが、早く遊びたいけど、気になって食べられないということが分かったので、食べやすいものを入れるようにしたり、量を調節したりして考えていきたいと思いました。



今回は一緒にご飯を食べましたが、そんなに長い時間ではないのに子どもたちとゆっくり向き合い、話せたように感じました。日頃は、つついバタバタ動きながら話をしてしまったり、「ちょっと待ってね」と話を区切ってしまうことが増えてしまった気がします。子どもとの時間は【癒し】だったことを思い出しました。

鬼ごっこのルールでトラブルになったとき。トラブルの原因にフォーカスするのではなく、ルールや次の良い行動の話をするすることで、誰がこうしたのが悪いとか、負の雰囲気にならず解決されていて、日々の兄弟げんかも、こう解決すれば、……な空気が流れずに済むな〜、と勉強になりました。



年少さんの時は個々でバラバラ遊ぶ子が多かったけれど、年中さんになってグループで遊ぶ子がたくさんいて、お友だち同士の会話がおもしろかったです。鬼ごっこをしていて少しもめていた子たち、ケンカになるかなと思ったけれど、二人が顔を見合わせてにらめっこのような解決方法で仲直りしたり…とてもステキだなと思いました。



園内を案内してもらいましたが、ブドウや、食べられる葉っぱ(?)や、眺めの良いお気に入りスポット、転んだ場所(再現付き)などなど、イキイキ教えてくれて、楽しいがいっぱいつまった園庭なんだなぁと感じました。



最近、次の日に必要なものを教えてくれるようになり、きちんと帰りの会で先生の話の聞いているのだなと思いました。



事前に妻から、「園児たちと一緒に走り回ったりして遊ぶ」などなど聞いていたので、不安があるとすれば、面識のない園児たちと、短時間の間で仲良くなれるだろうか?ちゃんとコミュニケーションとれるだろうか?といったところでしたが、そのような心配は不要でした。お弁当や外遊びの時間を通して、組や学年を問わず、多くの園児たちの方から挨拶をし、遊びに誘ってくれたからです。驚いたのは、「自分は、〇〇を食べるのが好き(嫌い)なんだけど、好き(嫌い)?」や、「自分は〇〇できるんだよ、△△くんのお父さんは〇〇できる?」「一緒に〇〇して遊ばない?」といった、相手のことを考えながら話している園児が多かったことです。



年中さんは、お姉さんお兄さんになりたい部分と、まだ年少さんでいたい部分、本当に振り幅の大きい時期だと思います。大人の気持ちとしても、「もうお姉さん(年中)なのに!」と思う時と、「まだお姉さんじゃなくていいよ~」と思う時、いつも両方の気持ちがあります。なので、年中さんのこの時期は、思いっきりあっち側へ行ったり、こっち側に戻ってきたり…でいいのでしょうか。



※年中組の保育参加。少しずつ友だち関係が広がってきて、保護者の方も、友だちの一員として、受け入れて遊んでいた子どもたち。身体をしっかりと動かすことも多かったですよ。

筋肉痛、大丈夫でしたか?(笑)

みんな自由に、思うがまま遊んでいる、のびのびしていていいなぁと思いました。絵本を読んでもらって楽しみながら聞いていて、興味津々な子どもたち。とてもおびやかな園での生活。今日の幸せな気持ちを忘れないように、頭の中にとどめておこうと思いました。